良好な景観形成のための色彩指標の作成

Color Indexes for Superior Landscapes

○　大野研*、田島和希*

○　Ken OHNO, Waki TASHIMA

1 まえがき

1-1.背景　戦後の食糧増産期や高度経済成長期における経済性優先の無秩序開発[1]や、かつて使われていなかった人工材料、塗料の建物への大量供給[2]により、地域に色彩の氾濫が起こり始めている[3]。一方で総理府の「国民生活に関する世論調査」では1978年頃から日本人が希求する豊かな社会へのキートレンドが「物の豊かさや利便性」から「心の豊かさや美意識の高揚・　快適性」へと大きく変化したことが示された。また、平成16年制定の「景観法」では、「良好な景観は国民の共通資産」と謳われている。こうした現状を受け、今日では良好な景観保全のために各自治体や国による様々な取り組みがなされている。中でも地域の色彩の重要性が見直されてきている[3]。

1-2.過去の研究と本研究の目的　地域の色彩を把握するためには、修正マンセル色票により地域の色彩を測定し、その色度図から色彩の分布傾向を把握する[6][7][8][9][10][11]ことが一般的である。そして、関[4]は地域特性を持った色彩設計を行う上で、地域の「揃えられる色(テーマ・カラー)」を見つけ出すことが具体的方策の第一歩であるとし、東[5]はその地域で広い面積を持ち面的に使用される色「ベースカラー」が重要であるとし、同様に吉田[2][12]も地域の基盤色の把握とそれとの調和が重要であるとしている。したがって地域の測色結果から、地域の基盤色を決定することが地域の景観設計には重要となる。しかし、測色結果から地域の基盤色を決定する際には、豊富な経験が必要とされる過程が含まれる事が多い。そこで本研究では、重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）を、歴史的なまち並みの色彩が保たれ、優れた色彩設計の事例を知ることができる地区であると位置づけ、それらの地域の色彩分布傾向を定量的に把握し、通常のまち並の色彩分布と比較することで、良好な景観形成のための色彩指標が作成について検討した。

2 方法

2-1.対象　重伝建地区6カ所（亀山市関宿、美濃市美濃町、富田林市富田林、大津市坂本、京都市上賀茂、京都市産寧坂)、及び非伝建地区2カ所（津市住宅地、津市大門）において視感測色を行った。なお、測色対象は建築物の屋根と外壁及びそれに準ずる大きさを持つ景観要素に限定した。また既往研究[6][7][11]から、重伝建地区3カ所（橿原市今井町、京都市祇園新橋、近江八幡市八幡)、非伝建地区11カ所を検討対象に加えた。したがって、全部で重伝建地区9カ所、非伝建地区13カ所を対象とした。

2-2.解析方法　視感測色結果より色相・明度・彩度ごとに、ヒストグラム及び箱ヒゲ図を作成することで各属性の分布傾向を見た。次に全データを重伝建地区と非伝建地区とに二分し、それぞれの〔最大値と最小値の差〕及び〔75%点と25%点の差〕を属性ごとに比較した。

三重大学生物資源学部 Faculty of Bioresources Mie University　景観、色彩、重要伝統的建造物群保存地区

2-3. 景観色彩評価構造の把握 木多ら(1997)[13]は色彩調和の評価が景観の総合評価と有意な相関があることを示した。そこで本研究では色彩調和についての心理評価実験[13,14,15,16,17,18,19,20]の整理を行い、解析結果との比較を行った。

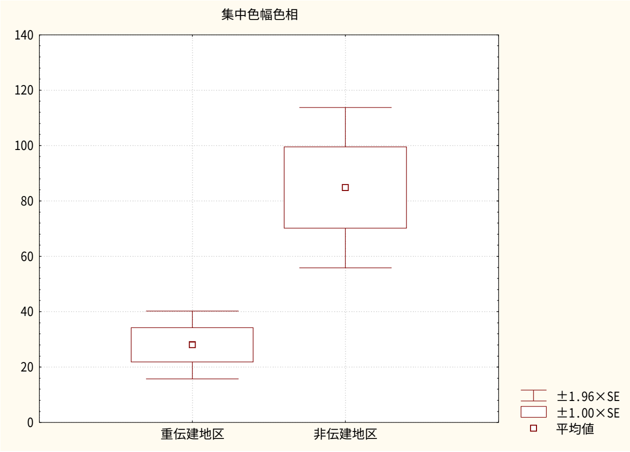

図 3-1 〔75%点と 25%点の差〕平均の 95%信頼区間

3 結果 重伝建地区と非伝建地区との比較の結果、両者の色相の〔最大値と最小値の差〕の平均及び〔75%点と 25%点の差〕の平均に有意な差が見られた。Fig.3-1 に重伝建地区と非伝建地区の〔75%点と 25%点の差〕の平均を示す。このことから、重伝建築では、明らかに色相がまとまっていることが分かる。また心理評価実験の整理から、色彩調和には暖色系に集中した色相が有効とされる傾向があることがわかった。Fig.3-2 に重伝建地区の色相分布を示す。重伝建地区における 75%点と 25%点は全て暖色系（Fig.3-2 の四角形内）に納まることから、重伝建地区色彩傾向と心理評価との一致も確認された。

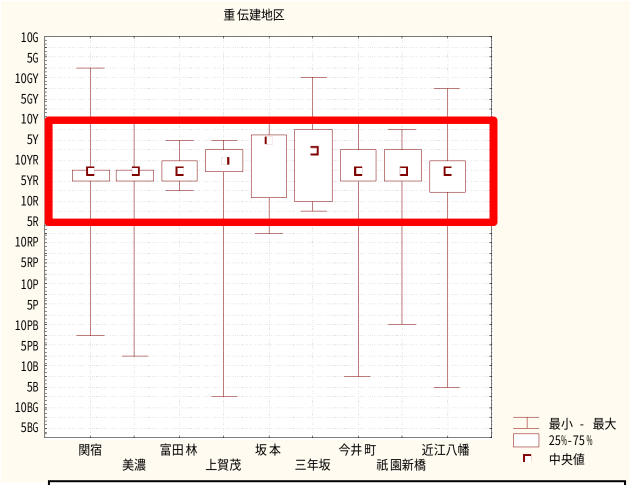

図 3-2 重伝建地区の色相分布と暖色系の範囲

4 参考文献

1)農業環境整備センター:農村環境整備の科学,朝倉書店,1995、2)吉田:景観法を活用するための環境色彩計画,丸善株式会社,2005、3)社団法人日本建築学会:建築の色彩設計法,2005、4)関:色彩と景観,新種大学教育学部紀要,1988、5)東:清水港における色彩計画の実践的研究,芸術工学会誌,2008、6)尾崎ら:風土に基づいた都市色彩計画に関する研究,日本建築学会計画系論文集,1988、7)境井・大坂谷:室蘭市の都市景観における建築物の外壁の色彩に関する研究,日本都市計画学会学術研究論文集,2000、8)山岸:農村景観の色彩について,金沢美術工芸大学紀要,1998、9)李ら:風土性に基づいた環境色彩に関する研究,日本建築学会大会学術講演梗概集,2003、10)李・三村:景観色彩における配色パターンに関する研究-ヨーロッパの伝統的な街区を対象として-,日本建築学会計画系論文集,2005、11)小池ら:伝統的建造物群保存地区における建造物壁面色の色彩調和に関する研究－橿原市今井町・京都市祇園新橋・近江八幡市八幡を事例としてー,日本建築学会近畿支部研究報告集,2002、12)吉田：まちの色をつくる,建築資料研究社,1998、13)木多ら:都市景観における色彩の評価構造に関する研究, 日本建築学会計画系論文集,1997、13)小松ら:街路景観の色彩調和-画像処理によるカラーシミュレーション-,日本建築学会大会学術講演梗概集,1987、14)武藤ら:街路景観の色彩調和-隣り合う建物の色彩の相互関係-,日本建築学会大会学術講演梗概集,1988、15）稲垣:色彩要因を含んだ街路景観の評価に関する一考察,日本建築学会大会学術講演梗概集,1990、16)木多ら:街路景観における色彩の心理効果-連続する建物群の強調色の変化と「まとまり」評価等との関係,日本建築学会計画系論文集,1999、17)村松・中村:街路景観の統一感に与える色彩の効果-CG シミュレーションを用いた色彩ガイドラインの検討-,日本建築学会大会学術講演梗概集,2002、18)稲垣:景観要素の色彩評価に関する研究,日本色彩学会誌,1989、19)奥:街路景観の色彩構成に関する研究-建物壁面の色彩配列と修景要素の効果-,日本建築学会大会学術講演梗概集,1992、20)稲垣:景観要素の色彩評価に関する基礎的研究,日本色彩学会誌,1988